

特別展 Special Exhibition

# 武家の正統 片桐石州の茶

The Way of Tea in Katagiri Sekishū Style:  
An Authentic Samurai Tradition



上/竹尺八花入 片桐石州作 日本・江戸時代 17世紀 湯木美術館蔵 下/尻彫茶入 銘 夜舟 瀬戸 日本・桃山~江戸時代 16~17世紀 根津美術館蔵

片桐石州（1605~73、貞昌、石見守、三叔宗閔）は大和国小泉藩第2代藩主であり、武家を中心に広まった茶道・石州流の祖です。千利休の実子である千道安（1546~1607）から茶の湯を学んだ桑山宗仙（1560~1632、左近）の晩年の弟子で、利休流の侘び茶を基としました。一方、江戸の自邸では、武家層を中心に多くの客人を招き、大名らしい厳かな茶会を開きました。そして、寛文5年（1665）11月8日には4代将軍徳川家綱に献茶し、古田織部、小堀遠州に続いて、武家茶道の地位を確立したのです。石州の茶は、江戸時代を通して大名や武家に広く浸透し、また江戸城の茶を取り仕切っていた幕府の数寄屋坊主を多数輩出することとなります。平戸藩の松浦鎮信、仙台藩の伊達綱村、松江藩の松平治郷（不昧）、姫路藩の酒井忠以（宗雅）、彦根藩の井伊直弼など、多くの著名な大名茶人が石州流の茶をおこなっていました。石州流の茶こそ、徳川政権下における武家の正統と言えるでしょう。

本展覧会は、茶道史上に極めて重要な位置を占めながらも、これまで注目されることが少なかった石州と石州流の茶の湯を、没後350年を経て顕彰する初めての機会となります。

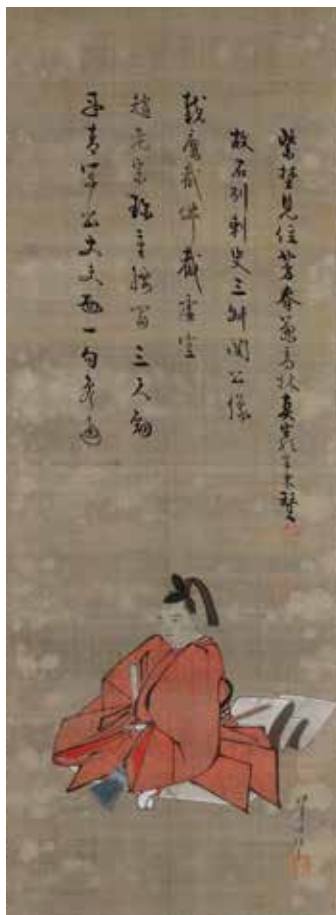
2025年 2月22日(土)~3月30日(日) 日時指定予約制

根津美術館 NEZU MUSEUM <https://www.nezu-muse.or.jp>

根津美術館  
NEZU MUSEUM



## 展示室1・2 武家の正統 片桐石州の茶



堂々たる装束姿、大名・片桐石州

かたぎりせきしゅうぞう  
片桐石州像  
とうげつ しんがん そうしゅう  
洞月筆 真巖宗乗賛  
1幅 絹本着色  
日本・江戸時代 明和4年(1767)  
ほうしゅん りん  
芳春院蔵

従五位下石見守に叙任された石州が礼装である東帯を身に付けた姿を描く。石州にゆかりの深い大徳寺芳春院の11世・真巖宗乗(1721～1801)が、石州の百回忌のために描かせたもの。(展示は3月9日まで)

柳宮御物を用い、4代將軍徳川家綱へ献茶する



重要文化財  
ぶじゅん し ほん ぼくせき きうん  
無準師範墨蹟 歸雲  
1幅 紙本墨書  
中国・南宋時代 13世紀  
MOA美術館蔵

寛文5年(1665)11月8日、石州は4代將軍徳川家綱に献茶した。將軍家に所蔵されていた柳宮御物の中から、床の間の軸として選んだのが、この無準師範墨蹟である。

### ＜一世一代の晴れ舞台 將軍への献茶＞

茶人として名を馳せるようになった61歳の石州は、小堀遠州(1579～1647)の門下である船越伊予守(1597～1670、永景)と共に、將軍・家綱(1641～80)に献茶します。まず、石州が家綱に茶を点て、相伴した四人の老中(酒井忠清、阿部忠秋、稲葉正則、久世広之)がその残りを別の茶碗に移して喫したとされます。その後、伊予守の献茶が続きました。將軍と老中という最高権力者への献茶は見事に成功し、茶席の後には別席で饗宴を賜ったとされます。

この寛文5年の献茶によって、徳川家康・2代秀忠に仕えた古田織部(1544～1615)、3代家光に献茶した遠州に続いて、石州は武家茶道における地位を確立したのです。

### 何度も茶会で用いた愛らしい尻膨



しりふくらちやいれ よふね  
尻膨茶入 銘 夜舟  
せと瀬戸  
1口  
日本・桃山～江戸時代 16～17世紀  
根津美術館蔵



自身の茶会で何度も用いた愛らしい瀬戸尻膨茶入。遠州好みの仕覆2点と石州好みの仕覆4点が添う。茶人の好みを反映した豪華な付属品が、石州道具の特徴である。

### 品格漂う石州の茶杓、その代表作

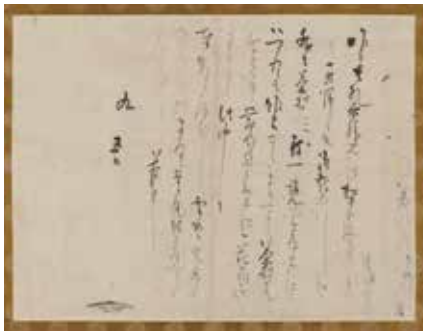


ちやしやく きみだれ ともづつ  
茶杓 銘 五月雨 共筒  
かたぎりせきしゅう  
片桐石州作  
1本 竹  
日本・江戸時代 17世紀  
野村美術館蔵

石州自作の茶杓は、大名らしい品格が漂う。本作はその代表作として知られ、石州流の茶を習った雲州松江藩7代藩主・松平不昧の蔵帳『雲州蔵帳』にも掲載される。

## 展示室1・2 武家の正統 片桐石州の茶

茶杓の鑑定を依頼され、結果を書き付けた手紙



しよじょう  
書状  
かたぎりせきしゅう  
片桐石州筆  
1幅 紙本墨書  
日本・江戸時代 17世紀  
大和文華館蔵

石州が美濃守（稲葉正則か）に宛てた手紙。茶杓の作者を尋ねられ、その結果を書き付けている。石州が茶道具の鑑定を依頼される目利きであったことを伝える。

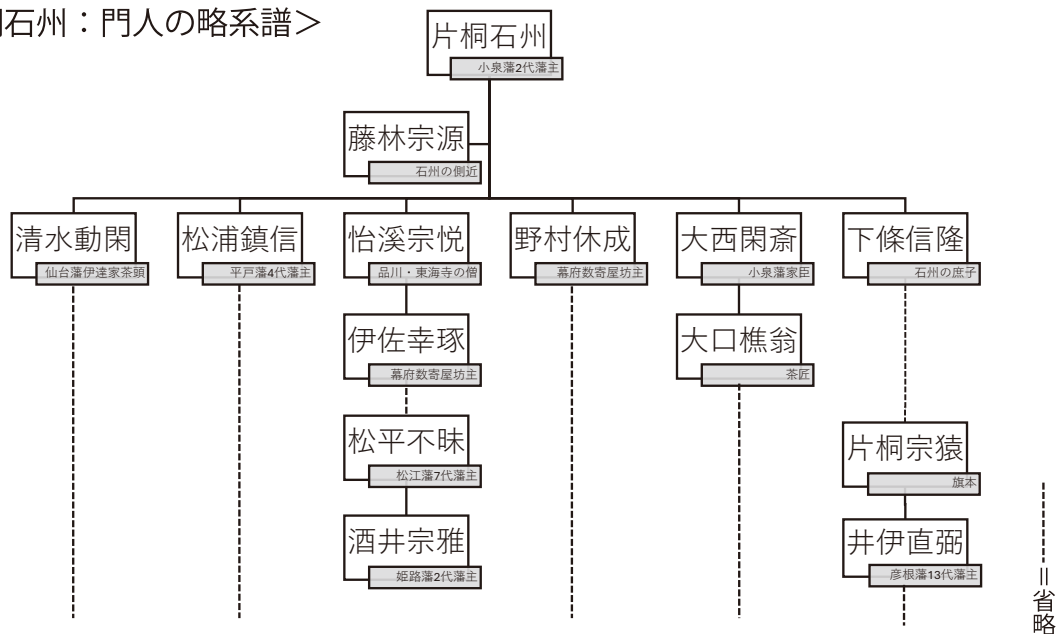
姫路藩主・酒井宗雅が石州忌で用いた石州遺愛の釜



うめたけず ひろくちかま  
梅竹図広口釜  
1口 鉄  
日本・桃山時代 16世紀  
根津美術館蔵

はりまひめじはん さかいそうが  
播磨姫路藩 2代藩主・酒井宗雅が、大和小泉藩 6代藩主・片桐貞芳より譲り受けた石州遺愛の釜。宗雅は天明7年（1787）の宗関（石州）忌で本作を用い、流祖を追慕した。

### <片桐石州：門人の略系譜>



## 同時開催

### 展示室5 百椿図 -江戸時代の椿園芸-

江戸初期の椿ブームを背景に制作された「百椿図」。公家日記や園芸書にうかがわれる椿園芸の様子とともに、ご覧いただけます。



百椿図（部分）  
かのうざんく  
伝狩野山楽筆  
2巻 紙本着色  
日本・江戸時代 17世紀  
根津美術館蔵 茂木克己氏寄贈

さまざまな器物や動植物と取り合わせるのも「百椿図」の特徴。かぶ蕪にさすのは、もらったり採取したりした椿が水涸れしないようにする工夫でもあった。

### 展示室6 春情の茶の湯

春情とは、春らしい様子のこと。草木が芽吹くこの季節にちなんだ道具をとりあわせ、華やかな春の茶の湯の一席をお楽しみいただけます。



ほりみしまちやわん このえ  
彫三島茶碗 銘 九重  
1口  
朝鮮半島・朝鮮時代 16世紀  
根津美術館蔵

花文が散らされていることから、春に好まれる彫三島の茶碗。本碗は、白い土と釉薬がたっぷりかけられたことで、柔らかい焼き上がりとなっている。

## 特別催事

### いけばな展示

#### —茶室で楽しむ椿のこころ—

池坊専好氏（華道家元池坊 次期家元）

2025年2月28日（金）～3月2日（日）

午前10時から午後4時まで

（ただし3月2日（日）は午後3時まで）

会場 庭園内茶室 弘仁亭・無事庵

当館茶室にて、展示室5での「百椿図」の展示にちなみ、華道家元池坊の協力のもと、椿を用いたいけばなをお楽しみいただけます。



華道家元池坊  
次期家元 池坊専好氏



庭園内茶室  
弘仁亭・無事庵

※観覧は無料ですが、入館料をお支払いください。

## 関連プログラム

当館ホームページの「イベント情報」の申し込みフォームからお申込みください。先着順で定員になり次第締め切ります。  
2月18日（火）13時より受付開始。いずれも入館料が必要です。

講演会 「片桐石州の茶の湯」  
（事前申込制） 日時 2025年3月8日（土） 午後2時～3時30分  
講師 熊倉 功夫氏（MIHO MUSEUM 館長）  
会場 根津美術館講堂 定員 100名

スライドレクチャー 日時 2025年2月28日（金）、3月21日（金）  
（事前申込制） いずれも午前11時30分から45分間  
講師 下村奈穂子（当館 学芸員）  
会場 根津美術館講堂 定員 各回100名

※担当学芸員が展示会の見どころをスライドを用いて解説いたします。

※内容は、2回とも同じです。開始の15分前に開場。

## 開催概要

展覧会名 特別展 武家の正統 片桐石州の茶  
主催 根津美術館  
開催期間 2025年2月22日（土）～3月30日（日）  
開館時間 午前10時～午後5時（入館は閉館30分前まで）  
休館日 毎週月曜日、ただし2月24日（月・振替休）は開館し、翌25日（火）は休館  
入館料 オンライン日時指定予約制  
一般 1500円（1300円）  
学生 1200円（1000円）  
※（ ）内は障害者手帳提示者及び同伴者1名の料金。中学生以下は無料。  
・当日券（一般 1600円、学生 1300円）も販売しております。（ご予約の方を優先してご案内いたします。当日券の方はお待ちいただくことがあります。混雑状況によっては当日券を販売しないことがあります。）  
・2025年2月18日（火）午後1時より当館ホームページで予約を受け付けます。  
・ご予約は1グループ10名までとさせていただきます。

アクセス 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車A5出口（階段）より徒歩8分、B4出口（階段とエスカレーター）より徒歩10分、B3出口（エレベーターまたはエスカレーター）より徒歩10分

住所 〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1  
お問合せ Tel. 03-3400-2536（代表）  
website <https://www.nezu-muse.or.jp>

記者内覧会の  
ご案内 2025年2月21日（金）午後2時00分～3時30分（予定）  
ご案内ご希望の方は、当館広報課へご連絡ください。

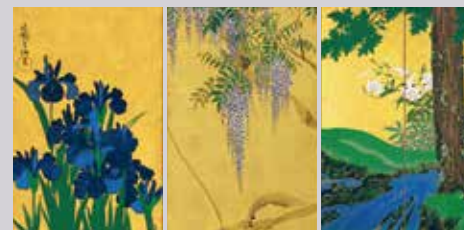
## 次回展

財団創立85周年記念特別展

### 「国宝・燕子花図と藤花図、夏秋溪流図

—光琳・応挙・其一をめぐる3章—

2025年4月12日（土）～5月11日（日）



（左より）  
国宝 燕子花図屏風（左隻）  
尾形光琳筆  
日本・江戸時代 18世紀  
重要文化財 藤花図屏風（右隻）  
円山応挙筆  
日本・江戸時代 安永5年（1776）  
重要文化財 夏秋溪流図屏風（右隻）  
鈴木其一筆  
日本・江戸時代 19世紀  
いずれも根津美術館蔵

根津美術館が誇る国宝と重要文化財の金屏風3件を、それぞれの魅力をさらに高める作品ととりあわせて、ご堪能いただけます。

同時開催： 展示室5 「女面の魅力 一能「杜若」に寄せて—」  
展示室6 「若葉どきの茶」

<リリース・広報のお問い合わせ>

根津美術館 広報課：所, 村岡 TEL: 03-3400-2538（直） E-mail: [press@nezu-muse.or.jp](mailto:press@nezu-muse.or.jp)  
※本資料掲載の内容は、予告なく変更になる場合がございます。最新の情報はお問い合わせください。（2024.12）